

R 下り壁の入力方法

文書管理番号：1017-01

Q. 質問

R 下り壁の入力方法について。

R 下り壁が上手く配置できない。

A. 回答

R 下り壁や外部 R 下り壁は、全壁などの配置方法とは異なり、起点-中間点-終点の 3 点配置で入力します。

操作手順

今回は、バルコニー手摺の上に表現する R 下り壁を配置しますので、 (外部 R 下り壁)を使用します。
建物内部に R 下り壁を配置する場合は、 (R 下り壁)を使用します。

- ①  (壁)の  (外部 R 下り壁)をクリック

* R 下り壁高さ設定の画面が表示されます。

- ② 配置時に指示する 3 点(壁の両端と中心)の高さをそれぞれ設定し「OK」をクリック

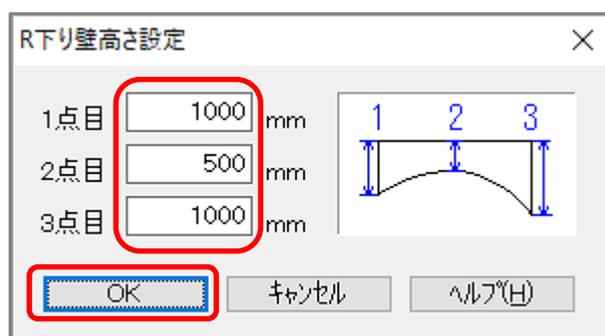
* 下り壁の下端の形状がアーチ型になるように、3 点の高さを決めてください。

ただし、高さの制限がありますので、詳細は P.3【注意】をご確認ください。

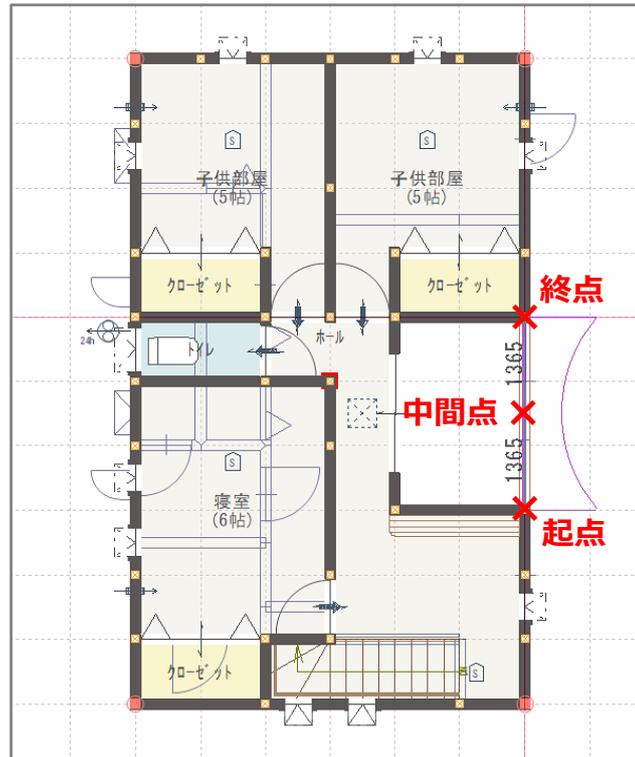
* 高さの基準は、配置する階の軒高さとなり、そこからの下がりになります。

内部であれば、配置する部屋の天井からの下がりになります。

* 2 点目はアーチの一番高いところの高さを設定します。



③ R 下り壁を配置したい位置で、起点-中間点-終点の3点をクリック



- * 3点は一直線上に取ります。
- * 起点と終点で下り壁の長さが決まります。中間点は②で決めた2点目の高さの位置に取ります。
- * 外部R下り壁が配置されます。

④  (3D パース)で確認



- * リアルタイム 3D ビューアでは、R 下り壁は起点と終点の高さの下り壁で表現されます。アーチ状には表現されません。

【注意】R下り壁の高さと幅の関係について

入力時にアーチ型が半円より大きな高さになる数値を設定した場合は、配置できません。

入力したいR下り壁の長さの $1/2 \geq 1$ 点目（または3点目）と2点目の高さの差となるように、R下り壁の高さを設定してください。

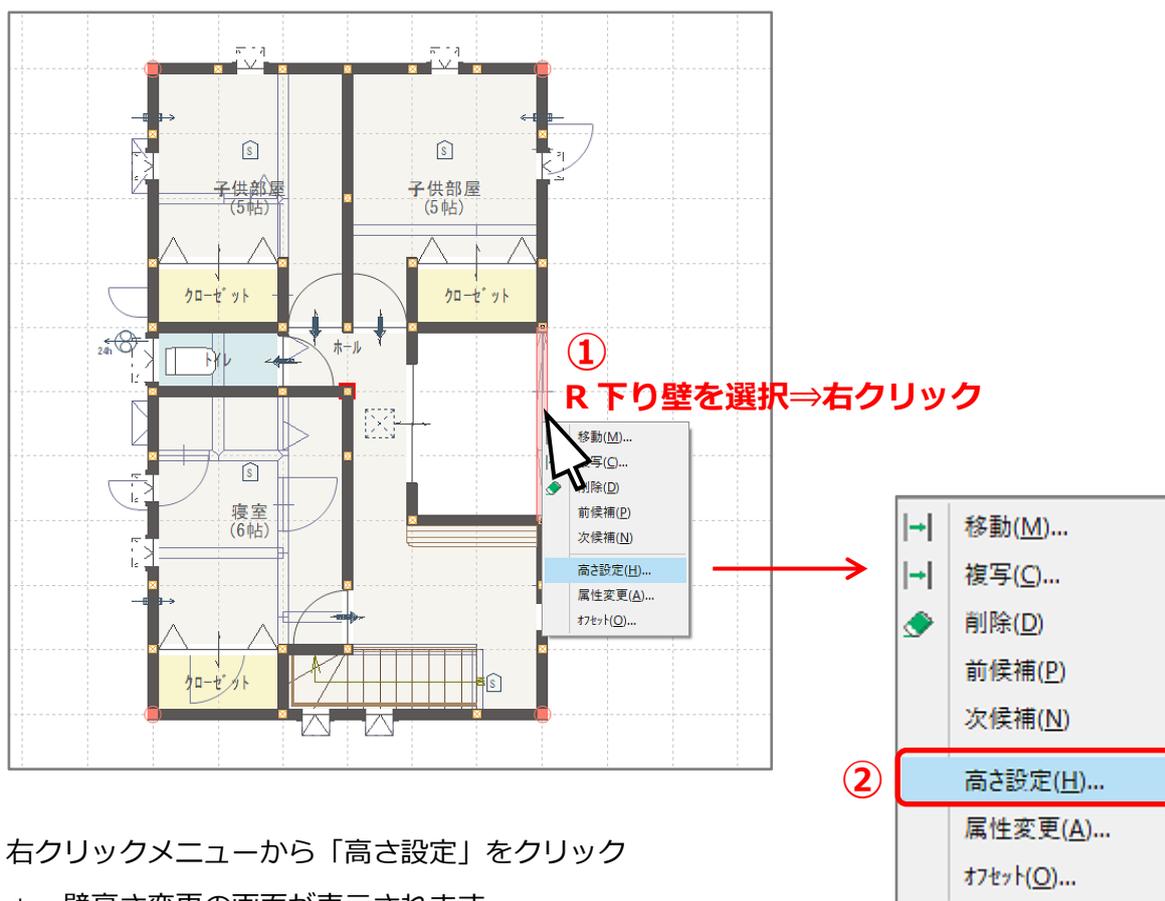
配置後に上記の条件を超える数値に高さを変更した場合、パースや図面で正常に表示されない場合があります。

参考

R下り壁・外部R下り壁は、配置後に高さを変更することが可能です。

● プラン図で変更

- ① (要素選択)の状態、高さを変更したい配置済みのR下り壁を選択後、右クリック



- ② 右クリックメニューから「高さ設定」をクリック

- * 壁高さ変更の画面が表示されます。
- * 配置済みのR下り壁をダブルクリックしてもかまいません。

③ 起点高・終点高・中間高を変更

- * 下がり壁の下端の形状がアーチ型になるように、3点の高さを決めてください。

ただし、高さの制限がありますので、詳細は P.3【注意】をご確認ください。



④ 「OK」をクリック

● 3D パースで変更

- ① 選択モードが「同名パーツ」または「パーツ」の状態で、高さを変更したい R 下り壁を選択後、右クリック



- ② 右クリックメニューの「プロパティ」の「設定」をクリック

- * プラン図の「壁高さ変更」と同じ画面が表示されますので、同様に高さを変更します。
- * 高さを変更したい R 下り壁をダブルクリックしてもかまいません。

- ③ 変更後は「OK」をクリック